

# 博物館

No. 101

## ニュース



狩野派粉本 当館蔵 楓に大瑠璃（上）、二見ヶ浦・壇芝瑞（下）

粉本とは、絵師が仕事や練習のときに参照する、画手本や作品の写しなどをさします。写真の2点は、徳島藩の御用絵師であった矢野家に伝わりました。

「楓に大瑠璃」は、鳥と紅葉した枝を扇形の画面にまとめた手本です。「二見ヶ浦・壇芝瑞」は、伊勢の名所と、中国の有名な画家にちなむ岩竹図をならべています。和漢の組み合わせに見どころがあります。

矢野家は、明和元年（1764）に、藩主の紹介で江戸の木挽町 狩野家入門し、4世代がそこで画を学びました。この師家は、将軍家直属の絵師として、18世紀後半に大きく勢力をのばしました。

（美術工芸担当：大橋俊雄）



きれいね！



# 徳島藩の改革とその評価

—改革は失敗？それとも成功？—

松永 友和

江戸時代には多くの藩で、藩政改革が行われました。中学社会の教科書にも、中期藩政改革として、米沢藩や熊本藩の事例が紹介されています。もちろん、ここ徳島においても改革はくり返し行われましたが、教科書に掲載されていないこともあり、一般的に広く知られているとは言えません。さらに、その改革が失敗したのか、それとも成功したのかについても、論者によって評価は2つに割れています。以下では、徳島藩の改革の概要とその評価について紹介したいと思います。

## 1. 徳島藩の改革

そもそも、江戸時代の藩政改革とは、財政危機の克服、支配体制の強化等を目指し、藩が実施した改革のことを言います。具体的には、農村復興、藩専売制、藩校の設立等が行われました。

徳島藩の改革について、ここで詳細に述べることはできませんが、要点をкаいつまんで言うこと以下の通りです。9代藩主蜂須賀至央が在職60日で没すると、秋田新田藩佐竹義道の4男義居が10代藩主に迎えられます。のちの蜂須賀重喜です。江戸から徳島に来た重喜は、早速改革に着手します。その主眼は、「新法」の実施（人材の登用）と、藍を中心とした領内経済の建て直し等です。しかし、重喜は改革の最中、幕府から謹慎処分を命じられてしまいます。

その後、家老による政治主導を経て、11代藩主蜂須賀治昭が父重喜の改革路線を継承し、藍の流通政策の促進（株仲間の公認）や藍以外の国産品の奨励、藩学問所の開設、地誌の編纂、農政機構の再編等を実施しました。

## 2. 改革に対する評価

徳島藩の改革については、以下のような評価がなされています。例えば、賀川（1992）では、「徳島藩は1767年に幕府から仕法の中止を命じられ、蜂須賀重喜は謹慎処分とされて、嫡子治昭に藩主の位を譲ることを命じられた。幕府の流通支配に対抗して藩専売制を強化し、藩財政を自立させようとした重喜の改革は、幕府によって挫折

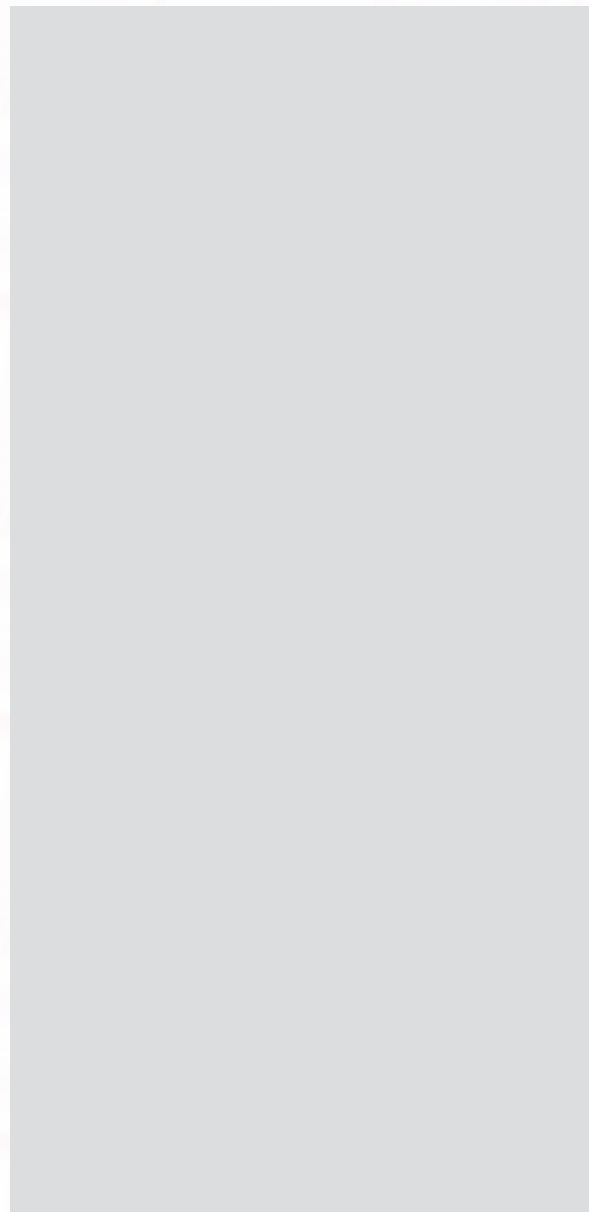


図1 蜂須賀重喜画像 享和2年（1802）個人蔵  
写真提供 徳島市立徳島城博物館  
10代藩主蜂須賀重喜は、宝暦・明和の改革を実施したが、幕府から謹慎処分を命じられ、改革は一度、挫折した。

を余儀なくされた」とあります。つまり、重喜による改革は、より強力な幕府権力によって挫折させられた（失敗）と説明されています。

一方、徳島藩の改革は成功したと述べるのが新修大阪市史編纂委員会編（1990）です。「徳島藩は明和の藩政改革の挫折にもめげず、重喜の跡を襲った藩主治昭の下で再び藍業の改革に取り組み、成功を収めたのである。（中略）徳島藩は19世紀になると江戸・大坂をはじめ全国各地に対する市場独占・販売独占を計画し、実現に移した。（中略）徳島藩によるこうした活発な藍の販売活動は、大坂問屋に大きな打撃を与えた」と説かれています。つまり、改革は一度挫折するものの、その後実施された藍の流通政策等は達成された（成功）と捉えられています。

### 3. 評価の基準

このように、徳島藩の改革は、江戸時代における改革の失敗例として説明されたり、成功例として説明されたりするのです。藩政改革という1つの歴史的事実でも、見方によってここまで評価が分かるとは、正直驚かされます。その要因には、評価の基準が異なっていることが考えられます。「失敗」とする主張は、改革を宝暦・明和期の約20年間にしぼり捉えているのに対し、「成功」とする主張は、18世紀後半から19世紀前半の約100年間を視野に入れています。期間だけでは

なく、藩主の謹慎処分（政治的事象）や大坂商人に対する藍の流通政策の主導権争い（経済的事象）等、改革の本質的な部分における評価基準も異なります。

さらに、近年では、成功か失敗かの二者択一以外の評価や、今までにない新たな論点の提示も行われています（平川、2008）。改革を結果から考えるのではなく、政策実施プロセスに重点をおいたもの（世論の形成過程）や、民衆知と幕藩権力との関係やあり方（献策と地域リーダー）を議論する、興味深い論点が紹介されています。

今回は、徳島藩の改革の概要と評価について紹介しました。明治時代になると徳島は、江戸時代に貯えた富（経済力）を背景に、さらなる発展を遂げます。その意味で、徳島藩は改革に成功した数少ない「雄藩」の1つと言えるかも知れません。ただし、全ての領民にとって改革が「成功」だったかは別問題であり、さらなる検討が求められています。（歴史担当）

#### 〈参考文献〉

- 賀川隆行『集英社版 日本の歴史14 崩れゆく鎖国』（集英社、1992年）32・33頁
- 新修大阪市史編纂委員会編『新修大阪市史4』（大阪市、1990年）632～636頁、阿部武司氏執筆分
- 平川新『全集 日本の歴史12 開国への道』（小学館、2008年）203～207頁

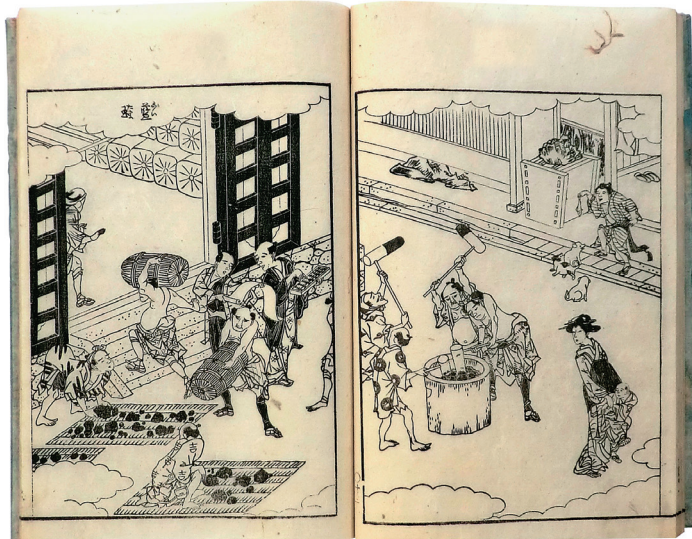


図2 阿波名所図会（藍玉） 文化8年（1811） 徳島県立博物館蔵  
阿波国の主力産業は藍であり、藍をめぐる流通政策は、徳島藩の改革の成否を左右した。

# 常設展の一部を

# ★フレッシュアップしました！

徳島県立博物館は、開館 25 周年を機に、常設展を部分的に改装しました。とくに、年齢や障がいの有無、国籍の違いにかかわらず、できるだけ多くの人に利用していただけるよう、各種のサイン・パネル表示を工夫しました。改装箇所は以下のとおりです。

## ★常設展への誘導シール

1 階から 2 階常設展受付までの床面に、当館のイメージカラーで作った「●」シールを貼り、とくに若年層に向けた誘導サインとしました。

## ★正面入口の看板

展示資料のイラストを使って新規作製し、より目立つ場所へ移設しました（図 1）。

## ★『常設展のごあんない』のサイン

従来のを配色を調整してより鮮明にし、外国人向けに英語表記を追加しました。

## ★クジラの展示コーナー

常設展入口のロビーに、クジラの骨格標本を展示しました。平成 26 年度企画展「まんまるワールド」で初公開したイチョウハクジラの骨格標本を常設としました。また、背景となるガラス壁面には、見やすさに配慮してタペストリーを設置しました（図 2）。

## ★床面の誘導サイン

常設展入口のロビー床面に、総合展示、ラプラタ記念ホール、部門展示、トイレへの案内の誘導サインを貼りました（図 3）。

## ★ラプラタ記念ホール入口柱の案内看板

ラプラタ記念ホール、部門展示、トイレへの案内看板を新たに設置しました。部門展示のポスターもここに掲示します。

## ★総合展示入口の看板

総合展示の入口が明確にわかるように、新たに看板を設置しました（図 4）。

## ★自立式のサイン

総合展示のゾーン 7 つと、ラプラタ記念ホールについて、解説文をそなえた自立式サインを設置し、それぞれの境界を明確にしました。（図 5）。



図 1 正面入口の看板

### ★ 項目解説パネル

デザインを一新し、とくに弱視の方に見やすい配色にしました。

### ★ QRコード

各所にQRコードを設置しました。スマホなどを用いて、展示解説の文字情報を4言語で読むことができます(図6)。展示室内では、無料のWi-Fiが使えます。

(動物担当：山田量崇)



図2 クジラの展示コーナー



図3 床面の誘導サイン



図5 自立式のサイン



図4 総合展示入口の看板



図6 QRコード

# ウミホタル

ウミホタル（図1）は海にすんでいる小さな甲殻類で、貝形虫（介形虫、カイミジンコ）というグループに属しています。貝形虫は二枚貝の貝殻に似た左右2枚の殻（背甲）で全身が覆われているので、このような名前がつけられています。

ウミホタルの殻の大きさは2～3mmで、貝形虫としては大きい方です。7対の脚があり、これを使って泳いだり、エサをつかんで食べたりしています。ウミホタルのすむ場所は砂地の浅い海底で、魚の死骸などを食べています。昼間は海底の砂の中にもぐっていて、夜になると活動します（図2）。

ウミホタルは強い刺激を受けると、発光物質と酵素をはき出します。これらが海水中の酸素と反応し、発光します（図3）。ウミホタルは光に対して逃げる性質があるので、なかまに危険を知らせたり、外敵を光で驚かせる意味があるのだろうと考えられています。また、光ることでオスがメスを呼ぶこともあるようです。

ウミホタルは、簡単なトラップで捕獲することができます（図4）。その方法は次の通りです。

- 1) 1～2リットルのペットボトルを肩で切り、あちこちに小さい穴を開けておきます。
- 2) 中にエサ（カニかまぼこや煮干し、豚レバーなど）と重りとなる小石を入れ、ペットボトルの上部を逆さにして押し込みます。エサは、ダシパックなどに入れておくと、海水との分離が簡単です。
- 3) ビニール紐でくくって海底に沈めます。完全に暗くなった状態で、10～30分経過したら引き上げます。

県内では鳴門市大毛島の東海岸にウミホタルが生息していますが、それ以外の場所についてはほとんど情報がありません。興味を持った方は、分布や生態などを調べてみてはいかがでしょうか？

小中学生の自由研究のテーマとしてもよいと思います。  
（地学担当：中尾賢一）

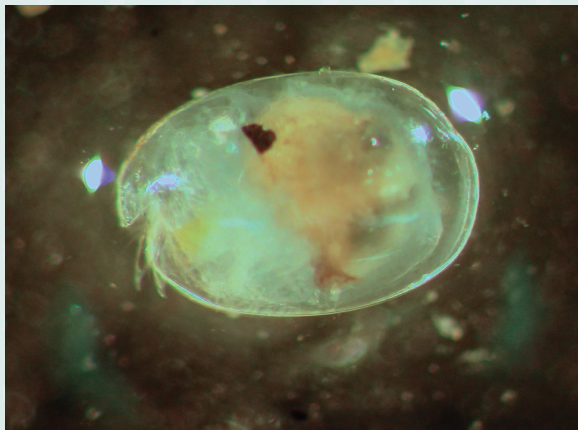


図1 右側面から見たウミホタル。体長1.8mm。

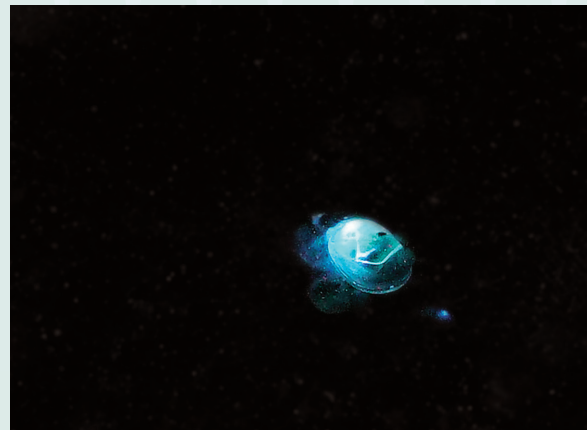


図3 ウミホタルの発光（佐藤学芸員撮影）

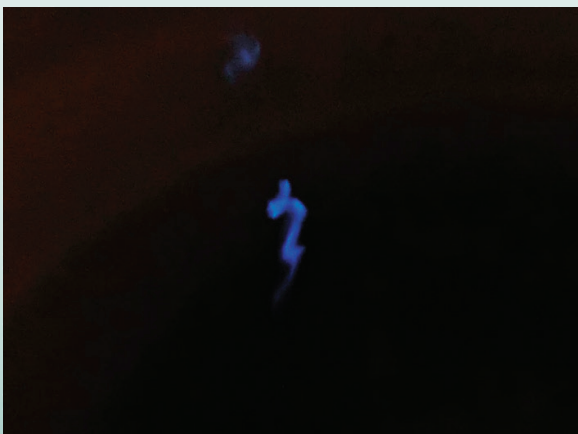


図2 動きながら発光するウミホタル

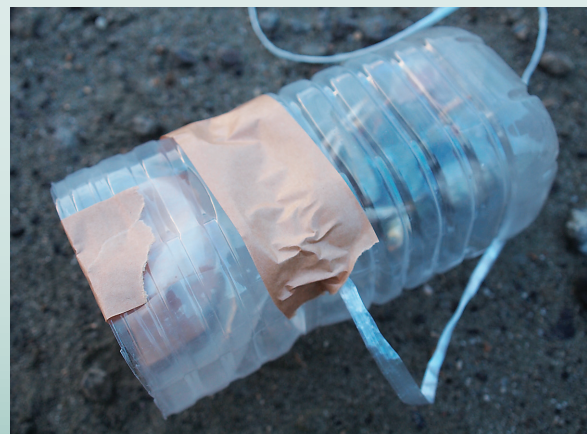


図4 ウミホタルを捕獲するためのトラップ



## 1月から3月までの博物館普及行事 あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史散歩	若杉山たんけん	3月27日(日)	9:00～15:00	要	小学生から一般(20)	現地集合
野外生きものかんざつ	初めての植物かんざつ(冬編)★	1月24日(日)	13:30～15:30	不要	一般(15)	
	中級クラス植物観察会2月	2月7日(日)	9:30～17:00	不要	一般(10)	
ミクロの世界	電子顕微鏡で植物を見よう!	2月21日(日)	13:30～15:30	要	小学生から一般(15)	
たのしい地学体験教室	木の葉化石の発掘体験★	3月13日(日)	13:30～15:00	要	小学生から一般(25)	材料費100円(大学生・一般)
	貝化石のクリーニングをしよう	3月20日(日・祝)	13:30～16:00	要	小学4年生以上(25)	
ワクワクむかし体験	小学生のための昔の道具しらべ	1月31日(日)	13:30～15:00	要	小学生から一般(25)	
	勾玉をつくろう	2月28日(日)	13:30～15:30	要	小学生から一般(20)	材料費100円(大学生・一般)
	古代の乳製品「蘇」をつくろう	3月6日(日)	13:30～15:00	要	小学生から一般(20)	
ミュージアムトーク	紀州熊野と阿波 一中近世の御師文書からー	2月14日(日)	13:30～15:00	不要	小学生から一般(50)	
	みんなで調べた西日本のタンポポ	3月27日(日)	13:30～14:20	不要	小学生から一般(50)	
海部自然・文化セミナー ※海陽町立博物館共催	徳島の希少昆虫類	1月24日(日)	13:30～15:00	不要	小学生から一般(50)	
	古代史入門ー文字資料は語るー	2月28日(日)	13:30～15:00	不要	小学生から一般(50)	
部門展示関連行事	「みんなで調べた西日本のタンポポ」展示解説	3月27日(日)	14:30～15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要
博物館スペシャル	文化の森ウィンターフェスティバル	2月11日(木・祝)	9:30～16:00	不要	幼児から一般	祝日無料

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。 ◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。 ◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

### 普及行事のお申し込みについて

- ◎ 1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎ 行事日の **1カ月前から10日前**までに、必着で右記までお申し込みください。
- ◎ 返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入してください。
- ◎ 希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎ 原則として、参加費は無料です。

#### 往復はがきの記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
<p>52 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館</p>	<p>何も書かないで ください</p>	<p>52 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名</p>	<p>1. 参加希望の 行事名 2. 参加希望者 全員名(学年) 3. 住所 4. 電話番号</p>

※お問い合わせは、徳島県立博物館へ（電話 088-668-3636）

## 文化の森ウィンターフェスティバル

- 日 時：2016年 **2月11日** (木・祝)
- 会 場：2階常設展示室
- 催し物：クイズラリー、体験型の催し物を  
予定しています。

博物館ボランティアスタッフが中心になって楽しいイベントを行います。文化の森の他館でも催し物があります。多数の方のご来館をお待ちしております。

※入場・参加無料  
遊びに来てね!



2015年のウィンターフェスティバルの様子

## 博物館友の会行事のご紹介

2015年5月23日(土)、友の会行事「深淵みぶちの自然観察」を実施しました。会員19名が参加し、有意義な活動となりました。

〈場 所〉三好市東祖谷  
〈活動内容〉剣山国定公園内に位置する深淵での自然観察



深淵の自然観察 参加者のみなさん

…………… 2015年度の今後の行事予定 ……………

3月12日(土) 梅見ハイキング(神山町阿野)

※お問い合わせは、友の会事務局へ  
(電話088-668-3636)